

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472400346
法人名	日本理化工業 株式会社
事業所名	グループホーム はつらつ
所在地 (電話番号)	津市芸濃町棕本5481-2 (電話) 059-266-1888
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 2 月 29 日(金)

【情報提供票より】 (H20年2月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12人, 非常勤 3人, 常勤換算	13.9人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,500 円	その他の経費(月額)	21,700 円	
敷金	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 120,000 円	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 / 無 <input type="checkbox"/>	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(2 月 10 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護1	6 名	要介護2	6 名			
要介護3	4 名	要介護4	1 名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	88 歳	最低	79 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	岩崎病院 駒田医院 細川歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

津市の市街地から離れた新興住宅地に事業所がある。母体は株式会社で本社が名古屋市にあり、三重県の営業所が事業所の道路を隔てた向かい側にある。協力医院の医師の往診が週に1回あり、メンタル面できめ細かく対応がされている。事業所の中は全体に広いスペースに設計がされてゆったりとしている。大声を発することなく静かで落ち着いた印象であった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前年度外部評価後、職員で話し合いがもたれ個々に検討された。まだ残された課題もあるが、前向きな姿勢で改善にむけて取り組みする意欲がある。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニットのリーダー、管理者でまとめて自己評価を作成した。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>年に2回の開催で、事業所のことを知ってもらい、協力をお願いなどしているが、まだ活かした取り組みまで至っていない。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会を立ち上げ、思い、意向を聞く機会ができ、今後も推進していきたい意向である。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、共同作業に参加したり、回覧板が回ってくるなど地域とのつきあいをして、今後も気楽に交流できるよう進めたい意向である。</p>
重点項目④	

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の理念を踏襲し、そこに含まれる「はつらつ」として「安心」した生活を応援する中で地域とのかかわり、その人らしい生活を支えていく方針である。	○	地域の中でその人らしい生活を支える、実践を通して構築されるよう期待する。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎朝の引継ぎ時に唱和している。利用者の歩調にあわせた生活の援助を第一に支援がされている。		
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板の共有、共同作業への参加、また事業所の夏祭り、もちつき大会に地域の方を招いている。	○	事業所周辺一帯が新興住宅地で他所からの居住者ばかりで、事業所が地域の拠点となる存在の意義は大きい。事業所が気軽に近隣住民が立ち寄れるミニサロンの場として提供されてはどうか、期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度、外部評価後、職員で話し合い、改善にむけて取り組みされた。本年度の自己評価は、各ユニットのリーダー及び管理者で取り組まれた。	○	自己評価に取り組むことは、自らの気づき、理解等が明らかになる機会でもある。自己評価は職員皆で作上げるよう期待する。
	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に2回の開催にとどまっている。市の職員の参加を求めているものの、なかなか参加してもらえない現状である。	○	運営推進会議が地域連携の足がかりの1歩である。参加メンバーに柔軟性をもたせ、また開催にあたり、メンバーのスケジュール調整をして、2ヶ月に1回、開催されるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の空きがある時など市へ出向いて情報収集をしている。	○	市との連携は重要である。運営推進会議に出席要請するとともに市の情報、事業所の情報を交換し、委託事業の取り組みにも期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2ヶ月に1回、ホームたよりを家族へ通信している。随時、利用者の生活の様子、健康状態を報告している。預かり金は、残額が少なくなった時点で家族へ連絡し、入金時に個別に作られた金銭出納帳を見てもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に苦情等は寄せられていないが、19年に家族会が発足し、意見、意向等聞く機会ができ、今後、運営に活かしていきたい意向である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的にはユニットごとに職員が配属されている。しかし、18人の利用者を2ユニットの職員全員がケアできる体制をとれるよう、ユニット間を異動して利用者となじみの関係を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に研修計画は立てられていないが、この度パート職員にも外部研修を受講する機会を持った。今後とも順次研修には積極的に参加をしていきたい意向である。研修後は報告をノートに記載して全職員へ回覧し、共有を図っている。個人的に資格取得を目指している職員もいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入し、研修等参加して交流をしている。管理者同士、連絡を取り合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	おためし入所から始めて、事業所に馴染んでもらってから事業所での生活をスタートしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理では味付け等利用者の経験に学ぶことが多い。利用者の負担にならない程度に、掃除や片付けなどを職員と共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何をしたいか、思いがサインで利用者から送られてくるので、キャッチし、くみ取るように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を取り入れ、「できること、できないことシート」から記録等を見て、また職員の意見を聞いて、介護支援専門員が介護計画を作成している。	○	今後、担当制を取り入れ、介護計画を担当職員と介護支援専門員で作っていきたい意向である。生活ぶりがわかる計画を作成されるよう期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直しをしている。変化があれば随時の見直しがされている。	○	介護支援専門員が介護職と兼ねており、時間的ゆとりを取れるよう、また職員会議でのカンファレンスの充実を今後の課題としており、きめ細かい計画作りを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への通院介助、なじみの美容院へ白髪染めに連れて行くなど、柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院の医師に週1回往診にきてもらっている。歯科、眼科、皮膚科についても随時往診してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在ターミナルケアは実施していない。今後、家族会、協力医等との話し合いの中で、協力医との連携、職員体制等どのようにするかを検討していきたい。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導など、人前で声がけには細心の注意を払っている。また、記録等は事務所で書くようにし、保管も事務所内にされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所のスケジュールに縛られることなく、その日の利用者の様子、体調、天気等で1日の流れが決められる。利用者は健康には大変気を使い、体操をやったり、ゲームで脳トレに励むなど、和気あいあいと過ごすことが多い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は、業者に委託して配達されてくる。野菜を切ったり下ごしらえも職員とともにしており、配膳、片付けも利用者の出番である。テーブルは、3人に分かれ、それぞれ職員がついて話をしながら一緒に食している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日午後の時間帯にしている。どうしても入浴拒否の方がおり、家族の協力の下、お風呂へ入ってもらっている。外泊時などに希望があれば、朝、入浴支援したり夕方の希望にも臨機応変に応じている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や片付け、洗濯物をたたむ、家庭菜園作り等々役割があり、実力を発揮している。男性の利用者は事業所の主として皆を守るという役割を意識している。家族への手紙、電話も楽しみで支援をしている。気分転換をかねて、花見など周辺へドライブに出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩、買い物などに出かけている。また、1階のリビングから見渡せる洗濯物干し場の側にベンチが3ヶ所設置されており、天候に合わせて外気に触れながらくつろげる支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	車の通りに面しており、徘徊もあり鍵はかけている。昨年の評価を受け、日中少しの時間はかけないようにして様子をみている。	○	2階建ての建物であり、利用者にとって閉塞感もある。鍵をかけないときの利用者の様子から、今後の対応に期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、防災訓練は年2回実施している。	○	2階建ての建物であり、緊急時の対応の訓練はさらに望まれる。運営推進会議を活かして、地域住民の協力体制を求めて地域の方と合同の訓練の実施も計画される事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材調達業者の献立によりカロリー等栄養バランスを考慮して食事を提供している。水分補給も食事時やおやつ時など随時摂取に心がけている。要注意と思われる利用者には摂取量を記録し健康管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体に広い空間作りになって、ゆったりとしている。共有部分に畳コーナーがあり、お雛飾りがされていた。あちこちに椅子が置かれ、思い思いのところで過ごせるよう配慮されている。春の日差しが窓から入り明るい。光はカーテンで調整できる。気になる臭いもなく、掃除も行き届いてきれいであった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットの脇に数枚の畳が敷かれ、座る生活をされている方もいる。衣装ケースやテレビ、家族の写真が飾られ思い思いの居室づくりがされている。		